

ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06-14-2/3)

目 的

ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他分野の専門家とも学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域、中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。

成 果

1. 敦煌莫高窟壁画

ア) 2014 (平成26) 年 8 月25日～30日/10月10日、莫高窟第285窟 4 壁にて携帯型蛍光X線分析計、顕微鏡、分光光度計を用いた材料の選択・描画技法についての調査。

イ) 2014 (平成26) 年11月24日～12月13日、保護研究所張文元研究員の招聘および技術研修の実施。

2. 陝西墳墓壁画

ア) 2014 (平成26) 年 8 月24日、陝西歴史博物館壁画館、西安交通大学、及び漢陽陵地下遺構博物館の視察。

3. タジキスタン国立古代博物館所蔵の壁画断片の保存修復

ア) 2014 (平成26) 年 9 月10日～10月 3 日、タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土壁画断片の修復・マウント作業および修復後の壁画の展示と成果公開。

イ) 2015 (平成27) 年 3 月 1 日～10日、タジキスタン国立新博物館等所蔵ペンジケント遺跡及びフルブック遺跡出土壁画断片の写真撮影、調査・研究、資料整理の実施。

4. 国内外研究機関との協力体制構築のための調査

ア) 2014 (平成26) 年11月26日～12月 5 日、イタリアおよびドイツにて壁画の保存修復技法に関する現地調査。

イ) 2014 (平成26) 年12月11日、12日、「ユーラシア壁画の調査研究と保存修復に関する研究会」の主催。

ウ) 2015 (平成27) 年 2 月15日～20日、ウズベキスタンの国立歴史博物館等への視察ミッションの実施。

発表

- ・三箇山茜、鈴木修一、小椋大輔、中田雄基、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係」日本建築学会平成26年度近畿支部研究発表会 大阪 14.6.22
- ・鈴木修一、小椋大輔、岡田健、宇野朋子、蘇伯民、高林弘実、渡辺真樹子「敦煌莫高窟第285窟壁画の劣化要因の検討」日本建築学会平成26年度近畿支部研究発表会 大阪 14.6.22
- ・中田愛乃、高林弘実、崔強、岡田健「敦煌莫高窟第285窟に描かれたパルメット文様の彩色材料および技法」日本文化財科学会第31回大会 奈良 14.7.5-6
- ・福島千晴、高林弘実、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟西壁の供養菩薩群の制作工程」日本文化財科学会第31回大会 奈良 14.7.5-6
- ・Okada Ken, What Does the "Conservation" of mural Paintings Mean? – As seen in Research on Cave 285, Mogao Grottoes, Dunhuang, Dunhuang Forum, Dunhuang, China, 14.10.8
- ・Yamauchi Kazuya, Conservation of the Bamian Mural Paintings, Afghanistan. Dunhuang Forum, Dunhuang, China, 14.10.9
- ・Okada Ken, The Importance of Pan-Asian Specialist Cooperation for Advances in the Study and Conservation of Eurasian Mural Painting, Shaanxi History Museum Conference 2014, 14.10.16

②国際協力・交流等 Area11

刊行物

- ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2014』東京文化財研究所/敦煌研究院 15.3
- ・『ユーラシア壁画保存修復に関する比較調査報告書』東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 15.3
- ・『ユーラシア壁画の調査研究と保存修復に関する研究会報告書』東京文化財研究所 15.3

研究組織

- 岡田健（保存修復科学センター）、○山内和也（文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人、森井順之（以上、保存修復科学センター）、皿井舞（企画情報部）、藤澤明、小川絢子、増渕麻里耶、山藤正敏（以上、文化遺産国際協力センター）、高林弘実、渡邊真樹子、津村宏臣（以上、客員研究員）